

官報

號外

明治二十九年一月十四日

火曜日 內閣官報局

○第九回 衆議院議事速記録第六號

明治二十九年一月十三日(月曜日)午後一時十七分開議

議事日程 第六號 明治二十九年一月十三日

午後一時開議

第一 事業公債條例案(政府提出) 第一讀會

第二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第三 牛馬賣買免許稅規則其ノ他廢止法律案(政府提出) 第一讀會

第四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第五 烟草稅則中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第七 醬油稅則中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第九 輸入棉花海關稅免除法律案(政府提出) 第一讀會

第十 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十一 營業滿期國立銀行處分法案(政府提出) 第一讀會

第十二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十三 國立銀行紙幣ノ通用及引換期限ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第十四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十五 國立銀行營業滿期前特別處分法案(政府提出) 第一讀會

第十六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十七 鎖店銀行紙幣交換基金特別會計法第五條中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

○議長(楠本正隆君) 諸君、是ヨリ報告ヲ始メマスル

(佐脇書記官朗讀)

政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

理事ノ恩給及遺族扶助ニ關スル法律案

工藤行幹君ヨリ北海道炭礦鐵道會社補助金ニ關スル件ニ付柏田盛文君大竹貫一君高田早苗君ヨリ教育高等會議開設ニ關スル件ニ付政府ヘ質問書ヲ提出セラレタリ

議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

衆議院議事速記録第六號

明治二十九年一月十三日

議長ノ報告

區裁判所管轄區域變更法律案

提出者

坪田仁兵衛君
久保九兵衛君

特別委員長及理事左ノ通り當選セラレタリ

衆議院議員選舉法中改正法律案審查特別委員長

同理事

新聞紙法案審查特別委員長

同理事

特別委員左ノ通り指名セリ

登錄稅法案審查特別委員

稻葉市郎右衛門君
四宮有信君

高橋安爾君

木村格之輔君

蒲生仙君

酒造稅法案審查特別委員

賴俊直君

久保九兵衛君

堀内賢郎君

下飯坂權三郎君

漆間民夫君

鎌田勝太郎君

鈴木充美君

折田兼至君

鹿島秀磨君

營業稅法案審查特別委員

湯本義憲君

喜多川孝經君

河島醇君

石塚重平君

原善三郎君

葉烟草專賣法案審查特別委員

石原半右衛門君
兵頭昌隆君
恒松隆慶君

小畑岩次郎君
竹尾茂君

櫻井勉君

肥手毛三君

守屋此助君

草刈武八郎君

今井磯一郎君

立石岐君

加賀美嘉兵衛君

權藤貫一君

立花親信君

花水甚右衛門君

齋藤良輔君

田口卯吉君

成田直衛君

山田嘉穀君

佐々木政父君

首藤陸三君

伊藤德太郎君

內藤久寬君

改野耕三君

江島久米雄君

小阪善之助君

吉田正雄君

江藤新作君

大津淳一郎君 波多野傳三郎君
西村禮作君 須藤時一郎君
木村誓太郎君 大島信君
關信之介君 渡邊新太郎君
依田道長君 大須賀庸之助君
武市彰一君 竹内正志君

(左ノ質問書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

北海道炭礦鐵道會社補助金ニ關スル質問

北海道炭礦鐵道會社ハ採炭ノ鐵道運輸ト二途ノ事業ヲ營ム營利會社ニシテ其一部分ナル鐵道敷設費五百万圓ニ對シテハ一箇年五朱ノ純益ニ達セサレハ運輸開業ヨリ八箇年間其不足ヲ政府ヨリ補助スル特約アルモノナリ而シテ爾來該會社全體上ニ於テハ總株金ニ對シ一箇年一割乃至一割二歩ノ利益アルニモ拘ラス其一部分ナル鐵道敷設費ニ對シテハ僅カニ一箇年一歩一厘ヨリ利益ナシトノ口實ヲ以テ毎年政府ヨリ十五万八千圓乃至二十四万四千圓餘ノ補助金ヲ支給セリ蓋シ會社全體上ニ於テ一割以上ノ純益アルモノニシテ其一部分ニ限リ僅カニ一分ヨリ利益ナシトハ本員輩ノ毎ニ疑團ヲ免レサル處ナリ依テ之ヲ調査スルニ會社ハ自己營業品ニシテ然モ運輸上唯一多量ナル炭塊ノ運賃ヲ格外低減シテ炭礦業ニハ非常ノ利益ヲ與ヘ運輸上ニハ非常ノ損失ヲ歸セシメ其狀恰モ右手ノカヲ以テ左手ノ働キヲ抑ヘタルモノノ如シ蓋シ炭礦鐵道會社ハ炭塊一噸ニ付キ二十七年十二月マテハ一哩ノ運賃九厘ニシテ二十八年一月ヨリハ一錢一厘ニ改正セリ之ヲ日本鐵道會社若クハ筑豐興業鐵道會社ノ特約運賃百哩以上一噸一哩ニ付キ一錢六厘乃至二錢ニ比較スレハ非常ノ低減ナリ假リニ之ヲ一哩一錢五厘ノ運賃トシテ計算スルトキハ一箇年間更ニ十一万圓以上ノ利益ヲ得ルハ容易ナラン如斯理由アルヲ以テ第八議會ヘノ豫算委員會ハ大多數ヲ以テ此費目ヲ大ニ節減シテ一旦之ヲ決議セリ然ルニ政府委員ハ該費ハ二十七年四月ヨリ二十八年三月マテニ係ル補助金ニシテ殆ント既往ノ支出ニ屬シ今更節減スルヲ得サルモノト説明シ特ニ豫算委員會ノ再議ニ附シテ通過スルヲ雖モ果シテ二十七年年度ノ支出ニ屬スルモノナラハ二十七年年度ノ豫算ニ編入シテ其前年ニ於テ帝國議會ノ協賛ヲ需ムヘキ筈ナルニ二十八年度ノ豫算トシテ其年ノ議會ニ協賛ヲ需ムタルハ憲法第六十四條及ヒ會計法第五條ニ違反スルモノナリ敢テ問フ

北海道炭礦鐵道會社ハ利子補給年限間政府ハ會計其他ノ物件ニ付キ充分監督ノ權利ヲ有スルニモ拘ハラス政府ハ何故ニ該會社營業唯一ノ物品ニ對シテ格外低減ナル運賃ヲ容認セシカ
豫算ハ前年ノ帝國議會ニ於テ協賛ヲ需ム可キ規則アルニモ係ラス政府ハ何故ニ北海道炭礦鐵道會社ノ補助ニ限リ其年ノ豫算ニ編入セシ乎
右議院法第四十八條ニ依テ提出ス

質問書

本院ハ第八議會中即チ明治二十八年三月八日ニ於テ教育高等會議開設ノ建議案ヲ可決シ直ニ政府ニ送附セリ聞ク同時ニ貴族院モ同様ニ可決シタリト然ルニ政府ハ今日迄何等ノ著手モナサハ到底採用實施スルノ意ナキヤ惟フニ戰後ノ經營一ツニシテ足ラス教育ノ如キモ最モ一大刷新ヲナシ膨脹的ノ帝國ヲシテ愈基礎ノ鞏固ヲ計ラサルヘカラス殊ニ臺灣ノ如キ創業ノ期ニ當ル此際獨リ既往ノ歴史ニ徵シテ變轉極リナキ當局者ノ經畫ニ任スルハ得策ニアラス須ラク經歷アル學識アル人士ノ靜平精熟ノ詢謀ヲ要スルモノト確信セリ然ルモ猶政府ハ無用視スルヤ否ヤ明確ノ答辯アラントヲ望ム
明治二十九年一月十一日

提出者 工藤行幹
贊成者 天竺伊左衛門
外三十一名
大竹實一
高田早苗
尾崎行雄
贊成者 外三十三名

○議長(楠本正隆君) 是ヨリ會議ヲ開キマス

○工藤行幹君(百十番) 議長質問ノ要點ヲ……

○議長(楠本正隆君) 少シ——請暇ノ件ニ就イテ決議ヲ要シマス、河北勸七君病氣ニ附キ三週間ノ請暇

(「異議ナシ異議ナシ」ノ聲起ル)

○議長(楠本正隆君) 御異議ナシト認メマス、次ハ質問ノ理由ノ説明ガゴザイマス、工藤行幹君

(工藤行幹君演壇ニ登ル)

○工藤行幹君(百十番) 私ハ北海道炭礦鐵道會社ノ補助金ノコトニ就イテ質問書ヲ提出シテ置キマス、此質問ノコトハ寔ニ獨リ金錢ノコトバカリデナク、法律上ニ關係スルコトデアルト思ヒマス、此事ヲ質問致シテ政府ノ答辯ニ依ッテハ豫算審議ノ際ニ於テ諸君ト共ニ攻究シナケレバナラヌコトガアルト思ヒマス、茲ニ質問書ヲ提出シタノデアリマス、故ニ私ガ此理由ヲ一通リ諸君ニ御話シ申シテ置キタイト思ヒマス、抑、政府ガ從來定メテ置ク所ノ各會社ノ補助ト云フコトニ就キマシテ寔ニ不公平不當ナルコトガ往々アルノデゴザイマス、今日ヨリ見ルトキハ、併ナガラ此事ハ業ニ已ニ政府ガ某ノ會社某ノ人民ト約束シタコトデゴザイマス、今更之ヲドウトモスルコトハ出來ナイ、是ハドウカシテ濟マシテシマハナケレバナラヌガ、此北海道炭礦鐵道會社ノ補助ニ就キマシテハ最モ不公平特ニ不當ナルモノト斷言スルヲ私ハ憚ラヌノデゴザイマス、ナゼカナルト此北海道炭礦鐵道會社ノ補助ト云フモノハ一箇年五朱ノ利益ニ當ラナケレバ政府カラ之ヲ補助スルト云フコト

明治二十三年ニ於テ條約シテ、其補助スル年限ハ八箇年間補助スルト云フコトニナツテ居ル、然ルニ此炭礦鐵道會社ナルモノハ諸君モ御承知ノ通炭礦ヲ採テ之ヲ賣捌クト、ソレカラ此鐵道ヲ以テ運輸スルトノ二ツノモノハ相兼テ一ツノ會社ニナツテ居ル、而シテ補助ノ利子ハドノ位アルカト云ヘバ此鐵道ノ内或ル部分ニ限リテ其元金五百圓ニ對シテ五朱ノ利子ヲ補助スルト云フコトニナツテ居ル、然ラバ此炭礦鐵道會社ナルモノハ即チ運輸ノ業ト炭礦ヲ掘ルノ二ツノ業務ヲ兼ネテ居ルモノデゴザイマシテ、此會社ノ是マデノ利益ノ配當ヲ見マスルト、全體ニ就イテハ其年ニ依ッテ不同ガアルガ、大體一割乃至一割二分ノ利益ヲ配當シテ居ルノデゴザイマス、一割二分或ハ一割ノ利益ヲ配當スル譯ナレバ決シテ政府カラ補助ノ金ヲ要スル必要ガナイト云フコトハ明ナコトデゴザイマス、然ルニ其一部分ナル鐵道ニ限リテハ一分一厘ヨリ利益ガナイト云フテ昨年モ政府カラ二十餘萬圓ノ補助金ヲ得テ居ル、其他ノ年ニ於テモソレヨリ少イコトモアリ多イコトモアルケレドモ、殆ド十萬以上二十萬以上ノ補助ヲ得テ居ル、誠ニ不思議ノコトデゴザイマス、全體ノ會社總體ニ就イテハ一割一分或ハ一割ノ利益ヲ配當シナガラ其會社ノ一部分ナル鐵道ニ限ッテ一分一厘ヨリ利益ノナイト云フコトハ如何ニモ不思議ノコトデゴザイマス、故ニ吾々ハ此事ニ就イテハ篤ト調査シタイト云フ積デ昨年モ豫算委員デアリマシタカラ其前ヨリモ段々調査ヲシテ見ルノデゴザイマス、然ルニドウ云フ譯デ會社全體ニ就イテハ大キナ利益ガアリナガラ鐵道ニ限ッテ利益ガナイト云フコトヲ調査シテ見ルト、此會社デ其會社ノ所有ナル石炭ヲ運搬スルニ非常ノ廉價ヲ以テ運搬シテ居ルノデゴザイマス、元來北海道ノ鐵道ト云フモノハ外ノモノニ就イテハ内地ノ鐵道カラ見ルト云フト何レモ倍以上ノ多額ナル運賃ヲ取ッテ居ルノデゴザイマス、一般ノ物品ニ就イテハ大ニ高イ賃錢ヲ取ッテ居ル、然レバ此炭礦ニ於キマシテモ矢張同様に割合ニ高ヲ取ラナケレバイカナイノハ當リ前ノコトデアリマスノニモ拘ラズ、世間無比ナル之ヲ廉價ニシテ居ルノデゴザイマス、大抵此日本鐵道會社ナリ或ハ此九州鐵道會社ナリデヤツテ居ルモノ、其外特ニ炭礦ノタメニ鐵道ヲ敷イテ居ル所モゴザイマスガ、是等ノ所ハ大抵一厘一噸ノ運賃ハドレダケデアリカト云ヘバ格別ニ特約シテ廉價ニシタノデモ尙ホ一錢五厘乃至一錢六厘ノ運賃ヲ取ッテ居ル、然ルニ炭礦鐵道會社ガドレダケノ運賃ヲ取リテ居ルカト云ヘバ、明治二十七年ノ十二月迄ハ一厘ニ附イテ一噸九厘ヨリ取ッテ居ラヌノデゴザイマス、其後ニナツテ段々此議會カラ議論ガアリマシタ末明治二十八年一月ヨリ一錢一厘ニ増シマシタケレドモ、一錢一厘ニシテモ尙ホ他ノ鐵道ノ運賃カラ比レバ無類ニ是ガ安イノデゴザイマス、斯ノ如ク自分ノ所有ニ係ル石炭ハ極安イ運賃ヲ以テヤリマスカラ鐵道ニハ利益ガナクナツテ來ル、サウシテ此石炭ノ方ハドウデアアルカト云フト無類ナル安イ運賃ヲ以テ之ヲ運搬シテ世間同様に直段デ賣付ケマスカラ、石炭ノ方ニ就キマシテハ大變ナ利益ガ上ツテ來テ、サウシテ運輸ノ業ノ一部ニ就イテハ一分一厘ヨリ利益ガナイト云フ結果ニナルノデアリマス、誠ニ奇々怪々ノコトデアリマス、抑此鐵道中ニハ或

ハ此九州ノ鐵道トカ山陽鐵道トカ云フヤウナモノデアリマスト海ト競争ニナリマス、船ト競争ニナリマスカラ格格外ニ鐵道ノ方デ運賃デモ引下ゲナケレバナラヌト云フ必要モ出來マセウガ、是ハ已ムヲ得ナイコトデモアリマセウガ、此北海道ノ炭礦鐵道ニ就イテハ決シテ他ニ競争ガスル者ガナイ、競争スル者ガナイト云フト當リ前ノ運賃ヲ取ルガ當然デアルニ、當リ前ノ運賃ヲ取ッテ居ル、故ニ會社全體ニ就イテハ一割乃至一割二分ノ利益ガアリナガラ鐵道ニ就イテハ一分一厘ヨリ利益ガナイ、サウシテ政府カラ昨年ニ於テハ二十二萬四千幾ラ當年ニ於テハ少シ減シマシタガ、二十萬一千幾ラト云フモノヲ補助利子ヲ取ッテ居ルノデゴザイマス、吾々議員ハ誠ニ僅ノ日數デ取調ヘル場合ニ於キマシテモ斯ノ如キ不當ナル理由ガ判然トシテアルニモ拘ラズ、政府ハ是ヨリ利益ガナイト云フテ二十何萬圓ノ金ヲ拂フト云フコトハ抑、何等ノ事デゴザイマセウカ、實ニ私ハ政府ハ不都合ナル調ヲシテ居ルモノト斷言スルコトヲ憚ラヌノデゴザイマス、而シテ段々政府ノ言フ所ニ依リマスルト、昨年一昨年ノ委員會ニ於テモ言フデゴザイマスルガ初メ此九厘ニシテ置キマシタトキハ何ガタメニ九厘ニシテ置クカト云フト、炭礦會社カラ政府ニ出シタモノガアル、其出シタモノヲ見マスルト五十厘以上ハ一錢二厘、百厘以上ハ一錢運送スル、一體ノ直段ニ依ルト二錢五厘、百厘以上ハ二錢運搬スルノガ此會社ノ本則デアアル、然レドモ多額ナルモノガ出ルニ就イテ之ヲ九厘ニ引下ゲル、而シテ九厘ニ引下ゲタナラバ利益勘定ハ如何ニナルカト云フト、九厘ニ引下ゲテモ運搬費ガサウイラナイニ就イテ二割四分程ノ利益ガアルカラ、之ヲ九厘ニ引下ゲルト云フコトヲ政府ニ申立テ、アル、若シ九厘ニ引下ゲテ果シテ會社ノ言フ通ニ割餘ノ利益ガアルナラバ決シテ此鐵道ニ對シテ補助スルノ必要ガナイデゴザイマス、而シテ運賃ヲ九厘マデ引下ゲテモマダ二割餘ノ利益ガアルカラ斯様ニ引下ゲマスゾト云フト言ヒナガラ、總勘定ニナルト僅カニ一分一厘ヨリ利益ガゴザイマセヌト言フテ多額ノ金ヲ政府カラ取ルト云フコトハ、彼ノ會社ニシテ見レバ幾ラカ利益ヲ得ルノハ當然デアアルカラ、大キナ金ヲ取ルノハ商人トシテハ當然ナコトデアリマセウケレドモ、政府ガ此監督ノ任ニ當ッテ居ルモノガ斯様ナ親易キ理ノアルニ拘ラズ大キナ金ヲ出シテヤルト云フコトハ實ニ私ハ濫費ト言ハザルヲ得ナイノデゴザイマス、故ニ昨年ノ豫算委員會ニ於テ此事ヲ段々論究致シマシテ豫算委員ノ總會ニ於テ二十四萬四千餘ト云フ金ヲ半額ニスルト云フト一且決議シタノデゴザイマス、ソコデ決議シタ所ガ政府ハ茲ニ飛ンデモナイ論ヲ持出シタノデゴザイマス、何故カトナレバ此昨年ノ二十四萬某ト云フモノノ金ハ即チ一昨年ノ四月ヨリ昨年ノ三月マデノ補助利子デアアル、故ニ昨年ノ會議ニ於テ之ヲ減少スルトキハ縱令其理由ハ尤デアツテモ業ニ已ニ一錢一厘ヲ以テ運搬ヲ許シテアルカラ、今日既往ニ屬シタモノデアアルカラシテ之ヲ節減セラレテハ誠ニ困ル、道理ガアツテモ既ニ會議ト云フモノハ昨年モ一月ニナツテカラデアリマス、當年ノ一月ニナツテカラノ會議デアアルカラ當年ノ三

月マデノ補給ノ利子ト見ルトキハ既ニ過去ツタ後ノモノデアラカラ、今更之ヲ減シマスルト困ル、故ニ之ヲ再議シテ貰ヒタイト云フコトヲ再議ニナツタノデゴザイマス、ソコデ吾々政府委員ニ質スニ、抑、オカシナコトデアハナイカ、豫算ト云フモノハ前年度ニ於テ立テナクチャナラヌモノデアラカラシテ、政府ハ二十八年度ニ全ク此鐵道會社ニ補給スルモノデアラナラバ其前年度即チ二十七年年度ニ於テ會議ノ協賛ヲ得ナケレバナラヌモノデアアル、然ルニ二十七年ノ四月ヨリ二十八年ノ三月ニ至ルベキ補給利子ヲ二十八年度ノ會議ニ掛ケルト云フノハ其年ノモノヲ即チ掛ケルノデアアル、甚ダ是ハ不當ナコトシヤナイカ、何故不當カト云ヘバ即チ憲法ノ第六十三條ニ於テモ——六十四條ニ於テモ國家ノ歳入歳出ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシ——豫算ト云フコトヲ書イテアル、又會計法ニ於テモ「歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ」トアル、其前年ニ是非掛ケナクチャナラヌ、前年ニ掛ケルカラ議會ハ之ヲ調査シテ、其協賛スベキモノハ之ヲ協賛シ、又之ヲ削減スベキモノハ削減スルコトヲ得ルノデアアル、然ルヲ業ニ已ニ其年ノモノデ過去ツタ後ノ末ニ至ッテ此會議ニ掛ケルト云フナラバ、成ル程議會ガ増減シタトキハ政府ハ困ル、約束ニ反スルカラ尤モナコトデアアルケレドモ、何ガタメニ此北海道ノ炭礦鐵道會社ノ補給利子ニ限ッテ其年ノモノヲ會議ニ掛ケルト云フコトハ甚ダ不思議ナコトデアアル、若シ二十三年ノ初カラ政府ガ斯様ノ事ヲシタト云フコトニ氣ガ付イタナラバ吾々ハ修正シナクチャナラヌノデアアルケレドモ、今マデ氣ガ付カナクッテ昨年ニ至ッテ始テ政府ガ其事ヲ言出シタノデアアル、縱令後レ馳セニ言出シタモノデアアラウトモ、會計法ニ反キ、憲法ニ反イタモノデアアルナラバ、到底吾々ハ之ヲ協賛スルコトハ出来ナイノデゴザイマス、現ニ私ガ昨年此說ヲ提出シテ豫算ヲ過半數ヲ占メタトキニ内務大臣ガ私ニ面會シタイト云フコトデアリマス、故ニ内務大臣ニ逢フタ所ガ内務大臣ノ言フニハ當年ハ此支那ノ戰爭ノタメニ議會ハ大體政府ト衝突シナイト云フコトガ目的デアアルカラ、コレシキノ議案ヲ以テ今政府デ引クコトノ出来ナイノデ、議會デ減シタ所ガ政府ハ實際承諾スルコトガ出来ナイ、承諾スルコトガ出来ナケレバ議會ト衝突スルシヤナイカ、今度ノ議會ニ於テオマヘハ政府ト衝突スルコトヲ好ムノデアアルカト云フコトデアリマス、吾々ハ昨年此戰爭ノ時ハ伊藤内閣ノ從來ノ不信任ナルニモ拘ラズ、此戰爭中ハドウシテモ兄弟牆ニ關グコトハ止メテ戰爭ヲ全ウシタイト思フタカラシテ、從來ノ責任論モ控ヘタ位ナコトデアリマスカラ、僅ノ十萬ヤ二十萬ノ金ヲ以テ政府ト衝突スルコトハ固ヨリ避ケル積デアアル、然レドモ此事ト云フモノハ運賃サヘ上ゲレバ出来ルコトデ、政府ガ不承諾ヲ唱フベキ理由ハナイシヤナイカ、外ノ會社同様に運賃ヲ上ゲサヘスレバ宜イ、凡ソ會社ニ於テ補給ノ利子ヲ受ケルト云フコトハ止ムヲ得ヌカラ補給ノ利子ヲ受ケル、而シテ其補給ト云フモノハ又會社全般ノ利益ニナルニ付イテ政府モ之ニ補給スルノデアアル、然ルニ殊更ニ其直段ヲ安クシテヤルナラバ却テ此會社ノ不都合ノミナラズ、世間ノ賣買直段ヲ崩シテ獨リ炭礦鐵道會社ガ石炭ノコトニ就イテ天下

ノ利益ヲ壟斷スル譯ニナルカラ、之ガ訂正スベキモノハ當然訂正シサヘスレバ何モ譯ノナイコトデアアル、之ヲ其補給利子ヲ半額ニ減シテモ宜イ、決シテ此事ニ就イテ政府ト衝突ハシナイ、政府ハ之ヲ認諾シテモ宜イシヤナイカト言ツタラ、サレバ其道理ハ尤ナレドモ、サウシタイガ前申シタ通此事ハ二十七年ノ即チ四月カラ二十八年ノ三月マデノモノデアアル、今ハ則チ二十八年ノ一月二月デアッテ見ルト云フトドウトモ之ヲ訂正シテモ金ノ減シヤウハナイカラ政府ハ不承知ヲ唱ヘナケレバナラヌ、不承知ヲ唱ヘルトキニハ此議會ニ於テ豫算不成立ノ結果ヲ見ナケレバナラヌニ依ッテ、ドウカコ、ノ所ハ戰爭中ノコトデモアリ、之ヲ圓滑ニ通過セシメタイト云フコトデアアル、ソコデ私ガ言フニハ若シサウ云フ譯ナラバ政府ガ豫算編成法ハ違法デアアルニ依ッテ之ヲ訂正スルガ宜イ、吾々ハ金ヲ減殺スルコトハ免モ角モ違法ノ編成ニ賛成スルト云フコトガ出来ナイカラ、是非ソレナラバ其事ハ其年ニシテ來年度分ヲ更ニ茲ニ提出シナケレバナラヌ、サモナケレバ是カラ毎年々々來ルモノハ不當ト思ヒナガラ、既ニ既往ノ事デアアルカラト云ッテイッデモ議會ガ喙ヲ容レルコトガ出来ナイ結果ニナルカラ、是非サウ云フコトニ訂正シタラバ宜カラウト申シタイデ、則チ其意見ヲ以テ豫算委員會ニモ私ガ提出致シマシケレドモ、此當時ハ前申シタ通日清戰爭ノ場合デアアルカラ是等ノ事ヲ以テ政府ト衝突スルノハ誠ニ好マシカラヌカラ、免ニモ角ニモ當年ハ是デ通過シテ置カウト云フヤウナコトガ多數ヲ占メテ遂ニ政府ノ原案通ニナツタ、ソコデ過去ツタコトハ止ムヲ得ヌガ今日ニナッテハ是非此事ヲ訂正シナケレバナラヌ、若シ政府ノ言フガ如ク現ニ内務大臣ノ直話ノ通此事ガ則チ其當時ノモノデアラナラバ、政府ハ豫算編成上ノ違法ト言ハナケレバナラヌ、此事ハ私ガ納辯デ幾々申スヨリハ昨年——此明治二十八年一月二十一日ノ豫算委員會ニ於テ政府ハ全ク現在ノモノデアアルト云フコトハ、再三再四答ヘタ事ハ豫算委員會ノ速記録ニ細ニ書イテアルノデゴザイマス、是ニ由ッテ見ルト決シテ此會計法ニ據ツタモノデモナイ、憲法ニ據ツタモノデモナイ、否ナ、憲法會計法ニ違反シタモノト斷言スルニ憚ラヌノデゴザイマス、然ルニ政府ハ今年ニナッテモ尙ホ之ヲ改メズシテ又其儘ニ持ッテ來ルト云フコトハ自分ノ不當ヲ顧ミズ、豫算編成上ノ不確ナルヲ顧ミズシテ年々ゴマカシテ此豫算ヲ編成シテ出スト云フコトハ甚ダ不當ナルコト、私ハ思フノデゴザイマス、故ニ私ガ此要點ヲ二箇條ニ分チテ政府ニ質問スルノデゴザイマス、其一ハ北海道炭礦鐵道會社利子補給年限中ハ政府ハ十分之ヲ監督スルノ權利ヲ持ッテ居リナガラ、何故ニ此炭礦ノ運賃ヲ世間無類ナル低廉ノ運賃ニ據置タコトヲ許可シテ居ルノデアアルカ、其理由ヲ一ツ聞キタイ、第二ニハ何ガタメニ此前年度ノ豫算ニ提出セナイデ其年ノ豫算ニ提出スルト云フコトハ、取りモ直サズ會計法及憲法ニ矛盾シテ居ルモノデナイカ、ドウ云フ譯デ此ノ如ク矛盾シテ居ルモノヲ豫算ニ提出シテアルカト云フコトヲ、一ツニ分ケテ私ガ茲ニ質問書ヲ提出シタノデゴザイマス、故ニ此二箇條ニ對シテハ政府ハ定メシ明瞭ナル答辯ガゴザリマセウケレドモ、此答辯ノ如何ニ因ッテハ吾々諸君ト共ニ止ムヲ得ズ、豫算

ノ會議ヲ竣ツテ之ヲ論究シテ大ニ訂正シナクチャナラヌ、若シ之ヲ輕々ニ付シ去ルトキハ獨リ金ノ十萬二十萬ノ論シヤナイ、議會ガ則チ政府ノ違法ノ豫算ニ協賛ヲシタト云フコトデゴザリマシテハ實ニ此議會ノ神聖ニモ拘ルコト、思ヒマスカラ、其場合ニ至リマシテ政府ノ答辯如何ニ依ッテ諸君ト御協議ヲシタイタメニ豫メ此質問書ヲ提出シタ所以デアリマス

○議長(楠本正隆君) 次ハ柏田盛文君

(柏田盛文君演壇ニ登ル)

○柏田盛文君(百四十七番) 本員モ政府ニ向ッテ質問書ヲ出シマシタ、先日田中正造君ガ御注意ノ通ニ成ルベク質問演說杯ハヤラヌヤウニ、ヤッデモ長クナラヌヤウニスルコトハ私モ同感デゴザリマス、併シ其同感ニモ拘ラズ尙ホ一言コ、デ費サナケレバナラヌノハ是非共諸君ノ御耳ニモ入レテ置キ、且ツ進ンデ速記録ニ留メテ置イテ天下ノ輿論ヲ喚起シタイト云フ考カラ止ムヲ得ズ登壇致シマシタ、暫クノ間時間ヲ與ヘラレンコトヲ乞フ、殊ニ此事ニ就キマシテハ第八議會デ諸君ノ賛成ヲ得、殆ド一人ノ異議モナクシテ政府ニ建議ヲバシタコトデゴザリマスカラ、ソレニ就イテ質問ヲバ出スニ就イテハ一言諸君ニ御報告モシナケレバナラヌコト、考ヘマスカラ尙ホコ、デ御話致シマス、ソレハ外デモアリマセヌガ、此高等教育會議開設ノ建議デゴザリマス、是ハ第八議會中即チ明治二十八年三月八日ニ於テ一人ノ異議者モナクシテ通過シタ、ソレト同時頃ニ貴族院ニ於テモ殆ド一人ノ異議者モナクシテ通過シタサウデア、所謂兩院共ニ一人モ異議者ガナクシテ通過シタ所ノ建議ニ向ッテ、今日マデ何等ノ著手モシナイト云フハ、ドウ云フコトデア、カト云フコトヲ問フノハ極必要デアラウト考ヘマス、ソレニ就イテハ色々事情ノアルコトヲ聞込シタコトモゴザリマスカラ、ソレ等ノ事モ此處デ攻擊ヲ加ヘテ是非共輿論ノ力殊ニ諸君ノ力ヲ藉ツテ目的ヲ達シタイト云フ考、ナゼ此高等教育會議ガ必要デア、カト云フコトニ就イテハ、其時建議案ヲ出シタ時ニ委シク申述ベタコトデゴザリマスカラ之ニ就イテハ委ク申述ベマセヌガ、一寸既往ノ事ヲ申シテ見マスルト、文部省ノコト、云フモノハ——實ニ政府ノ凡テノ事ガ變轉極マリナキコトガ往々アリマス、ケレドモ殊ニ文部省ノ事ト云フモノハ實ニ朝令暮改モ甚シイヤウナ有様デアッタノデ、又政府デ見ル所モ文部ト云フモノヲバウナニ重ク見テ居ラヌヤウナ有様デア、ナゼナラバ大臣ハ殆ド腰掛ノヤウナ間ニ合セニ居ルト云フヤウナ有様デ、其大臣ガ更ニ幾分か變ル、知ラナケレバ變ヘズシテ置クナラバ宜シウゴザイマスケレドモ、生意氣ニ知ッテ居ルヤウナ風ヲシテ往々變ヘルト云フコトガアッテ、國民ガ非常ニ迷惑ヲシタト云フコトハ是マデノ歴史デ明ナコトデゴザイマス、是モ其時ニ申述ベテ置イタ通戰爭ノ濟ンダ後ニモ實ニ日本ノ一大革新ノ時代デア、ルカラ、萬般ノ事ニ向ッテ是マデノ方針ヲ變ヘテ行カナケレバナラヌ、改革シテ行カナケレバナラヌ、改良シテ行カナケレバナラヌ、此大切ナル時ニ當ッテ尙更教育ノ事ハ餘程基礎ヲバ固ク定メテ置イテ容易ニ變ヘナイト云フコ

トヲバセナケレバナラヌノデア、ソレデ今マデノ様ニ變轉極リナイヤウナコトデア、アッテハイケナイカラ、是非共此會議ヲバ開イテ然シテ一個ノ大臣ナドノ勝手ニスルコトノ出來ナイヤウニシテ置クノガ、必要デア、カト云フコトヲ陳ベテ置キマシタガ、此頃ニナッテドウデゴザイマセウカ、此臺灣ノ教育ノコト、云ッテモ極必要ノ事ガアル、ソレカラ大學ノ増設、或ハ高等專門學校、或ハ小學校教員ノ年功加俸、或ハ今建議ニナッテ居ル此償金ヲ小學校ニ分配スルコト云フコト、ソレカラ外國ノ語學校、マア是等ノ事モ極大切ノ事デゴザイマスガ、大切ノ事デア、レバ尙更初ノ間ヲ慎マナケレバナラヌ、臺灣ノ教育ノ事杯モ左程急グコトデハナカラウト思フノデア、是ヲ巴初ノ中ニ臺灣ニ注意シテ一度定メタ以上ハ成ルベク變ハラナイヤウナコトヲバシテ行カナケレバ占領地ノ人民ト云フモノ、信用ヲ得ルト云フコトハ益々ムツカシイコトデア、ラウト思フ、ソレカラ大學ノ増設ト云フコトモ無論必要デゴザイマセウ、併ナガラ今マデノ大學ノヤウニ學生ノ氣慨モナイ、或ハ識見モナイ、唯幫間ノ様ナ色男ノヤウナモノヲ拵ヘルノデア、アッタナラバ、是レ亦或ハ不要ナルカモ知レナイ、或ハ高等專門學校、所謂高等學校ト云フモノヲバ高等中學校カラ變ヘテ置キマシタガ、之ニ對シテモドウ云フ風ニシテ行ケバ宜イカト云フコトニ就イテ殆ド疑問中デア、去年ノ校長會議ニ於テハマダ是ガ早カッタ、大學ノ豫備門見タヤウナ風ニシテ置ク方ガ宜イ、元ノ通ニシテ置ク方ガ宜カッタナドト云フヤウナ校長ノ申合セダト云フコトヲ聞イテ居ル、ソレデ之ヲバ專門校ニスルト云フコトニ就イテハ餘程審議ヲ盡サナケレバナラヌコトデア、ラウト思フ、ソレカラ又小學校教員ノ年功加俸ト云フコトモ極必要デア、カト云フコトニ就イテモ當局者一個人デ定メルト云フヤウナ事ハ又考ヘナケレバナラヌト云フ様ナコトガアルカラ、是モ極大切デア、殊ニ此償金ヲ分配スルト云フコトニ就キマシテハ、是ハドウナルカ知レマセヌケレドモ、若シ行ル、ト云フコトニナッタナラバ、實行スルト云フコトニナッタナラバ、尙更ハ大切ナル事デア、ソレデ外國語學校ト云フモノモ極必要ナモノデア、ラウト思フノデア、併ナガラ私ガ諸君ノ御耳ニ入レ、殊ニ日本社會ノ輿論ヲ喚起シタイト云フノハ是等ノコトデハゴザイマセヌ、是等ノ事ヨリ外ニ殊ニ大切ナル事ガアル、ソレハ何デア、カト云フコト國民教育ノ事デゴザイマス、今ヤ我國ハ實ニ東洋ノ安危ヲバ兩肩ニ擔フテ居ッテ、日ニ迫ッテ來ル所ノ西洋ト勢力ヲ爭ハナケレバナラヌト云フヤウナコトニナッテ居ルデゴザイマセウ、ソレニ就キマシテ種々大切ナル事ガアル、勿論軍備擴張ノ事モ大切デア、實業上ノコトモ大切デア、併ナガラ國民ト云フモノガ若シ其方法ヲバ誤リ、ソレニ關聯シタ一番大切ナル教科書撰定方杯ガ誤ッタナラバドウデゴザイマセウカ、海陸軍ハ如何ニ整フタ所デ、是ハ唯裝飾ニ止マルト云フヤウナ有様ヲ爲スデゴザイマセウ、是ハ古今ノ歴史デ明デア、又實業ガドレダケ發達シタ所ガ、發達スレバ發達スル程却テ人心ヲ腐敗セシムル本ニナルカモ知レナイ、然ラバ日本國民ヲバドウ云フ風ニ作ラナケレバナラナイカ、吾々ハ是非トモ日本國民ハ此膨脹的ノ日本ノ境遇ニ適シタル所ノ

モノヲ作ラナケレバナラヌト思フ、最モ雄大ナル、最モ豪健ナル國民ヲ作ラナケレバナラヌト云フノハ分リ切ラタ話デゴザイマセウ、然ラバ經驗アリ、學力アル最モ有爲ノ人物ヲ集メテ、サウシテ教科書ニ就イテモ其方針ヲ容易ニ動カサナイヤウニスルコト云フノハ極大切ノ事デアラウト思フデアル、然ルニ文部省ニ任セテ置クコトノ出來ナイト云フコトハ此頃益々私ハ信シテ居ルノデアル、現内閣ノヤウニ外ニ對シテハ種々柔軟ノ政略ヲ執ッテ居リ、内ニ向ッテハ責任ヲ知ラナイ所ノ内閣中デ最モ劣等ノ位置ニ位シテ居ル所ノ文部省ニ之ヲ委任セテ置イテ、其結果ガ果シテ吾々ノ希望ト同一ニ出ヅルカト云フコトハ吾々ノ請合ノ出來ナイコトデゴザイマセウ、殊ニ其一例ニ就イテ最モ驚クベキコトガアル、此教科書ノ話ニ就イテハ其姓名杯ハワザト控ヘテ申シマセヌガ、或ル者ガ教科書ノ撰定ヲバ願フタ所ガ其中ニ日清戰爭ノ事ガアル、遼東還付ノ事ガ書イテアッタ、ソレデハハ許サレナイ、明ニソレガ書イテアルカラト云フ譯デモアリマスマイケレドモ、暗ニサウ云フコトガアッタ、是ハドウデゴザイマセウカ、是ヲバ許サナイト云フコトハ他ニ大ナル原因ガ二ツアル、一寸考ヘルト是等ノ事ハ小サナコトデアッテ、貴重ナル時間ヲ私ガ唯喋々コ、デ費スヤウニ諸君ガ考ヘラレルカモ知レナイケレドモ、能ク心ヲ潛メテ考ヘマスレバ、是亦私ハ大關係ヲ將來ニ向ッテ持ツモノデアルト考ヘル、大ナル影響ヲ持ツモノデアラウト思フノデアル、其二ノ許サナイ大原因ハドウデアアルカ、所謂國民ニ敵愾心ヲ惹起サセナイト云フコト、遼東還付ヲ屈辱デナイト云フコトデゴザイマセウ、是等ノ事ガ苟モ教科書ニ書カナイト云フコトニ至ッタナラバドウデゴザイマスカ、將來ニ於テハ非常ニ私ハ影響ノアルコト、考ヘマス、是ヲバ概シテ言ッテ見レバ、現内閣ガ己ノ過ヲ掩フタメニワザト遼東還付ノ事ハ屈辱デナイト斯ウ云フコト、同ジコトデアアル、屈辱デナイカラ敵愾心ヲ惹起スト云フヤウナコトハシナクモ宜イ云フコトニナリマセウ、サウスレバ己ノ過ヲ掩フコトハ實ニ罪ノ多イコトデアアルケレドモ、又ソレヲバ掩ハンガタメニ國民ノ自負ノ精神敵愾ノ精神ヲバ消滅セシムルト云フニ至ッタハ最モ棄置クコトノ出來ナイコト、私ハ考ヘルノデゴザイマス、ソレデ其過ヲバ過ト思ハヌドコロデアハナクシテ、或ハ文勳ハ赫々タルモノデアアルト世上ニ誇ッテ居ルカモ知レナイ、カモ知レナイト云フノ疑問ドコロデアハナクシテ、誇ッテ居ルノデアル、如何ニ陛下ノ御優遇ガアッタ所デ遼東ノ事ハ屈辱ト云フコトハ分ッテ居ル、唯其責任ノ有無ト云フ所ハ言ハナイデ、屈辱ト云フコトハ分ッテ居ル、然ルニ陛下ノ御優遇ガイクラアルト云ッタ所ガ其功勞ニ對スル所ノ大勳位皇族デナケレバ御授ケニナラナイ所ノ大勳位、殊ニ侯爵マデモ御受ヲパスルト云フコトニ至ッテハ、失敗ニ對シテ斯ウ云フコトガアルト云フコトニ至ッテハ、實ニ驚クベキ話デアアリマセヌカ、又其失敗者ノ同僚マデ或ハ武功モ何ニモナイ所ノ文官ニ至ルマデ、サウ云フ例ヲバ一ミコ、デ私ガ舉ゲテ國民ノ憤慨心ヲバ漏シテ置カウト思ヒマス（謹聽々々）ト呼フ者アリ）例ヘバ青木公使ハ

ドウデゴザイマスカ、三國ノ干渉ト云フコトハ突然ニ起ッタト云フコトヲバ誰カ……鈴木君カ誰カ申シマシタケレドモ、一箇月前ニ伯林ニ於テ三國會ヲシタト云フコトガアルノデアル、ソレヲバ知ラナイ所ノ公使ガ賞ヲ受クルニ至ッテハ、則チ三千圓ノ賞ヲ受ケタト云フコトニ至ッテハドウデゴザイマセウカ、ソレカラ西公使ハドウデアアルカ、所謂干渉ヲバ防グコトガ出來ズシテ今日ノ結果ニ至ッタニモ拘ラズ男爵ヲ授ケラレタ、若モ昔ノ武士ナラバ割腹シナケレバナラヌコトデアラウト考ヘマス、ソレカラ馬關ノ條約書ヲバ唯芝罘ニ持ッテ往ッテ御使シタト云フコトデアッテ直チニ男爵ト爲ッタ、或ハ議院カラ迫ラレテ漸ク朝鮮ニ金ヲ貸スコトガ出來タ、サウシテ其金ヲバ御使デ持ッテ往ッタト云フコトデアッテ直チニ男爵ニナッタ、或ハ軍事公債ヲ募ル、軍事公債ヲバ募ルニ就イテモ國民ガ義勇心カラ出シタモノヲ漸ク取纏メ、其方法ニ至ッテモ松方伯ノ力ヲ假リテ漸ク出來タモノヲ算盤ヲ彈イタト云ッテ直チニ男爵ニナリ、或ハ運輸交通トカ船ヲバヤッタトカ、或ハ鐵道ヲドウシタトカ、ソレ等ノ事ハ大臣ガ居ラナクテモ、次官ガ居ラナクテモ出來ルニ拘ハラズ是モ男爵ニナッタトカ、實ニドウ云フコトデアアルカ、譯モ分ラヌ、話デハゴザイマセヌカ、ソレカラ殊ニ其次ニ至ッテ甚シイ事ハ警視廳ノ高等官ハ馬關デ李鴻章ガ負傷シタトキ往ッテ居ッタ、サウシテ罰ヲ受ケナイ、罰ヲ受ケナイノハ責任者デナイト云フコトデアアルガ、併ナガラ賞ヲ受クルニ至ッテハ、直チニ勳何等デアルトカ、金ヲ二千圓貰ッタト云フコトデアアル、コトデアアルノミナラズ現ニアッタノデゴザイマス、是等ニ至ッテハ實ニ話ニモナラヌコトデアゴザイマセウ、一方デハ責任ハナイ、併ナガラ賞ヲ受クルトキニ至ッテ直チニ一番眞先キニ立ツニ至ッテハ實ニ話ニモナラヌコトデアゴザイマセウ、其後ニ至ッテハ實ニ殆ド分捕主義ガ行レテ居ルノト同ジ有様デアアル、殊ニ顛倒シタ事ハ斯ウ云フコトガアリマス、今度ノ明治二十七八年ノ功ニ依リ云々ト云フコトデアッテ、サウシテ其局ヲバ結ンダノハ軍人ハ外ノ事デアリマスケレドモ、文官ノ仕事ト云フモノハ遼東ノ始末ガ全ク局ヲ結ンダノハ昨年ノ十一月デゴザイマセウ、然ルニ功ニ依リ云々ト云フコトヲ以テ賞ヲ貰タト思ヒマスガ……能ク覺エナイガ七月頃デアアル、則チ總理モ七月カ八月頃貰貰フト云フコトニ至ッテハ、總令陛下ノ御優遇カラ、サウ云フコトガアルニモ拘ラズ、決シテ臣子ノ分トシテ受ケベキモノデナカラウト私ハ考ヘルノデアル、又遼東ノ事ヲ屈辱ト思ハズ、責任トモ思ハヌト云フノハ、是ハ實ニ瘋癲白痴ヨリ外ノ者ハサウ思ハヌコトハナカラウト思フノデアアル（拍手起ル）ケレドモ現内閣所謂一派ノ人ハサウデナイト云フコトヲ云フケレドモ、決シテサウ云フコトヲ思ハヌノハ此四千万ノ人民殆ド晨星ノ曉天ト同ジコトデアラウト私ハ考ヘルノデアアル、唯此際ニ於テ私ハ國民ヲ鼓舞作興シテサウシテ此膨脹ノ日本ニ能ク適當スルヤウナ人民ヲ作ルノハ宜イ材料デアルト云フコトヲバ考ヘタニモ拘ラズ、是ハ却テ讀本トサレナイ、サレタナラバ却テ

遼東ハドウトカ文勳赫々タル總理大臣ハ斯ウ云フコトヲシタトカ、其下ノモノハ斯ウ云フ功ニ依ッテ位記ヲ貰ツタトカ、斯ウ云フ功ニ依ッテ男爵ニ叙セラレタト云フコトヲ書クデアラウト思フデアアル、サウ云フコトニ至ッタナラバドウデゴザイマセウカ、外ノ事ヨリモ是非常ナ影響ヲ及スコトデアラウト私ハ考ヘルデアアル、序ナガラ一寸私ハ申シテ置キマスガ、

現内閣ハ或ハ思フカモ知レナイ、上奏案ハ既ニ少數ヲ以テ消滅シタカラシテ遼東ノ事ハ屈辱デナイ、又之ニ就イテ責任ハナイト云フコトヲバ思フテ居ルカモ知レナイケレドモ、是ハ大ナル間違デゴザイマス、國民派ハ殆ド肉ヲ食ッテモ飽足ラヌ程ノ憤ヲ含ンデ居リマスガ、併ナガラソレニモ拘ハラズ

血涙ヲバ飲ンデ經營問題ヲ先キニスルト云フコトヲバ論ジタノハ、實ニ忠誠ノ考アリテ止ムヲ得ズ、唯丹心一片世ノ中ノ評論ヲ顧ミズ、國家ニ對シテ忠實ト親切ノ心ガアルカラデゴザイマス、此忠實ナ心ト親切ニ對シテハ現内閣ハ苟モ一片ノ良心ガアッタナラバ、口デハ責任ガナイ、屈辱デハナイト無理

ニコジツケテ居ルケレドモ、心竊ニ考ヘタナラバ實ニ耻ヅルコトデアラウト私ハ考ヘルデアアル、此際辭職マデトハ往クマイケレドモ斯ノ如キ國民ノ代表者タル所ノ議院ハ親切デ經費問題ヲ先キニスルト云フコトヲ涙ヲ飲ンデ

議決シマシタナラバ、之ニ對シテ爵祿ヲ辭シテモ宜カラウト考ヘルデアアル、ソレカラモウ一ツハ現文部大臣ハ龔ニ七八月ノ頃師範學校長ヲ呼ンデ其會議ノ席カ、或ハ呼ビ集メタ外ノ席カ、何ニシロ其校長ノ席ニ於テ世界主義

義ト云フコトヲ演說致シタ、場所モアラウニ是ガ帝國議會デアッタナラバサウ深ク尤メルコトデナイト私ハ考ヘルデアアル、師範學校長ヲバ集メタ所ハドウ云フ所デゴザイマセウカ、師範學校ハ私ガ此處デ別ニ申サナクトモ小學

ノ模範デアアル所デアアル、小學校ハ則チ國民——國家的ノ觀念、國家ノ特性ヲ訓導スルコトヲ以テ第一ノ主義トセナケレバナラヌ所デゴザイマセウ、然ル

ニ態、師範學校長ヲバ集メタ所デ世界主義ヲ云フコトヲ言フノハ、唯偶然ニモ學問上ノコトヲ話シタコトデナクシテ、是モ一時ノ政略ヲ利用シヤ

ウトシタコトデアラウト私ハ推察スルデアアル、ナゼナラバ或ハ國家主義デアルトカ、國家的ノ觀念デアルトカ云フコトヲ盛ニ言ツタナラバ、矢張敵愾心

ヲバ惹起ス本ニナルデアアル、ソレデ世界主義ト云フヤウナ耶蘇坊主ノヤウナコトヲ言ッテ、餘程其氣象ト云フモノヲ將ニ起ラントスル精神ヲバ、チット斯

ウナダメヤウトシタ所ノ一時ノ政略ト思フデアアル、一時ノ政略ニ依ッテ仕事ヲスルコトハ何事ニモ吾々ハ大ナル不同意ヲ唱ヘル所デゴザイマス、ケレドモ、此教育上ニ一時ノ政略ヲバ以テ第二ノ日本國民ヲバ作ラントスル所ノ

最モ必要ナル國民教育ニ於テ、之ヲ利用スルニ至ッテハ決シテ之ヲ看過スルコトハ出來ナイト考ヘルデアアル、サウシテ見レバ此高等教育會ト云フモノ

ガナカッタナラバ、自分勝手ノ國民ヲ作ルコトニナルデアラウト考ヘルデアアル、此高等教育會ト云フモノハ矢張必要デアアル、併ナガラ私ノ唯今述

ケレドモ、諸君ノ力、國民ノ力、殊ニ輿論ノ力ヲ以テ是非トモ之ヲ執行セネバナラスコトデアラウト思ヒマス、敢テ政府ニ向ッテドウシテモ之ヲ開カヌカ、開カナケレバナランノ理由デア開カナイト云フコトヲ明確ニ答辯アラントコトヲバ偏ニ希望致シマス

第一 事業公債條例案(政府提出)

第一讀會

○議長(楠本正隆君) 議事日程ノ第一事業公債條例案ノ一讀會ヲ開キマス、該案ハ簡單デアリマスルケレドモ本日ハ議案ガ多數ニ涉リマスカラ、朗讀ハ悉ク省クコトヲ豫メ申シテ置キマス

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

第一條 事業公債ハ既設官線鐵道改良、北海道鐵道建設、製鋼事業、電話擴張ノ費途葉烟草專賣資金及國防事業ノ費用ニ充ツルカ爲メ證書額面壹億參千五百萬圓ヲ限リ漸次之ヲ募集ス

第二條 本公債ノ利子ハ一箇年百分ノ五以下トシ募集ノ都度大藏大臣之ヲ定ム

第三條 本公債ニ關シ本條例ニ規定セサルモノハ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ノ各條項ヲ適用ス

(政府委員大藏次官法學博士男爵田尻稻次郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(男爵田尻稻次郎君) 事業公債案ヲ御紹介致シマスガ、誠ニ此案ハ簡單ナ案デゴザイマシテ、モウ別段ニ説明ヲ要シマセヌガ、唯此戰後ノ財政計畫ヲ結ビマスニハ是非共必要ナモノデアリマスカラ、ドウゾ十分ニ御調査ヲ願ッテ速ニ御決議ナランコトヲ希望致シマス

○議長(楠本正隆君) 御質問ガナクバ日程ノ第二委員選舉ノ件ニ移リマス

第二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

○吉本榮吉君(八十二番) 特別委員ハ議長ノ指名ニシテ選舉シテ貰ヒタイト云フ……

(「贊成々々」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 別ニ御動議ガナクバ議長指名ニ委員ヲ一任スルト申ス……

(「異議ナシ異議ナシ」)

○議長(楠本正隆君) 然ラバ右ニ決シマスル、九名ノ委員ヲ選ブト云フコト次ハ第三牛馬賣買免許規則其他廢止法律案ニ移リマス

第三 牛馬賣買免許稅規則其他廢止法律

第一讀會

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

明治五年第二百三十號布告牛馬賣買免許稅規則明治八年第二十七號布告車

稅規則明治十六年第十三號布告船稅規則明治十八年第十一號布告菓子稅則ヲ廢止ス

附則

此ノ法律ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス但明治二十九年第二期菓子製造稅ハ仍菓子稅則ノ規定ニ依ル

○吉本榮吉君(八十二番) 私ハ此牛馬賣買免許稅規則、其他廢止法律案ノ第三、第五、第七、第九是ダケハ合シテ讀スルコトニ致シタイ、今日ハ日程ノ數モ餘程澤山アリマスシ、一々ヤツテ居ッテハ大變手間ガ取レマスカラ、日程第三、第五、第七、第九ト云フモノハ同議案デアッテ又政府委員ノ説明セラルルニ一ツニ説明ガ出來テ大キニ宜カラウト思フ、又特別委員モ之ガ一緒ノ特別委員ニ附託スルガ大變便利デアラウト思ヒマスカラ此說ヲ出シマス、其次ノ四ツハ是ハ又國立銀行ニ關係ノモノデ同ジク關聯シタモノデアリマスカラ、是モ後ト四ツヲバ一緒ニ讀スルト云フコト、シテ、其特別委員ハ矢張同一ノ特別委員ニ付託セラル、ト云フコトニ致シタイ、此事ヲ先ツテ——ツレカラモウ一ツ申上ゲマス、是ト同一ノ議員ヨリ提出ノ議案モアリマスカラ、是モ共ニ委員ニ付託シテ一緒ニシタイト云フコトヲ提出シマス

○小室重弘君(八十八番) 今八十二番ノ御説ガアリマシテ此何ノ方ノ議案モ一緒ニスルト云フノデアリマスガ、此第三ノ日程ニアリマスルノハ牛馬賣買免許稅規則、其他ノ廢止法律案ト則チ菓子稅及其他ノ廢止法律案デアリマス、是ハ一ニ廢止法律案ノ同ジ種類ノ所ニ集ッテ居リマスガ、後トノ方ノ分ハ一緒ニナルベキモノデハナイ、矢張是ハ特別ニシテヤツテ往クト云フコトハ無論ト思ヒマスル、八十二番ノ説ニ贊成ガ出來マセヌ

○議長(楠本正隆君) 吉本榮吉君ハ第八マデヲ一括シテ議題ニ供スルガ便利デアルト云フ動議デゴザイマス、贊成ガゴザイマス、又反對モゴザイマス、決ヲ採リマス、吉本榮吉君ニ同意ノ諸君ハ起立

起立者 少數

○議長(楠本正隆君) 少數ト認メマス

(政府委員大藏省主稅局長目賀田種太郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(目賀田種太郎君) 茲ニ各稅法ヲ整理スルニ當リマシテ増スベキモノハ増シマスルケレドモ、其整理ト共ニ牛馬賣買免許稅ノ如キ宜シク地方ニ屬セシムベキモノ、其他又船車稅規則、菓子稅規則ノ如キハ之ヲ廢止スルヲ可ト致シマス、因テ本案ヲ提出致シマシテゴザイマス、此案ニ依リテ稅額ノ廢セラル、額ハ百八十万圓餘デゴザイマス、茲ニ各位ノ審議ヲ待チマス

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 次ハ第四委員選舉ニ移リマス

第四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

○河島醇君(百七十九番) 此日程ニ就キマシテハ議長ヨリ先刻御報道ニナッ

タ所ノ營業稅ノ審查特別委員ニ付託セラル、コトヲ希望致シマス、大變關係ヲ持チマス故ニ、同一ノ委員ニ付託セラル、コトガ相當ト思ヒマス

(「贊成々々」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 該案ニ河島君ノ動議デ先刻報道致シタ所ノ營業稅ニ關スル委員ニ是モ付託シタイト申スコト、反對ノ聲ガナカラヌケレバ可定ト認メヤウト思ヒマス

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 然ラバ御異議ナシト認メマス——次ハ偕此案ニ就キマシテハ菓子稅ノ廢止ニ關シテ角田君外四名ノ提出案ガアリマス、ソレヨリ車稅規則廢止ニ關シテ松島廉作君外四名ノ提出案ガアリマス、ソレカラ又船稅規則廢止ニ關シテハ同ジク松島廉作君外三名ヨリ提出案ガゴザイマスケレドモ、是モ同ジク右ノ委員ニ付託スルコトニ……

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 乃チ第五ニ移リマス、煙草稅規則中改正法律案

第五 煙草稅規則中改正法律案(政府提出)

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

第一讀會

明治二十一年勅令第二十號煙草稅則中第六條及第七條ヲ刪除シ第二十三條ヲ左ノ通改正ス

營業免許ヲ受ケシテ煙草營業ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其ノ煙草及器械ヲ沒收ス第十五條又ハ第十六條第二項ヲ犯シタル者亦同シ

附則

此ノ法律ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス

(政府委員大藏省主稅局長目賀田種太郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(目賀田種太郎君) 煙草稅則ノ改正ハ此度營業稅ノ創定ト共ニ必要デゴザイマス、則チ六條、七條ヲ廢シ、又現法ノ第二十三條ニ於テ營業稅ヲ本トシテ課シマスル所ノ罰金ハ宜シク改ムベキモノト思ヒマス、從ッテ本案ヲ提出致シマシタ

○久保九兵衛君(八十五番) 此煙草稅則ノ改正案ハ昨日ノ葉煙草專賣法案ノ委員ニ付託セラレシコトヲ望ム、ソレカラ未ダ報道ニハアリマセヌガ、醬油稅則ニ於テモ昨日通……

(「未ダソコニハ行カヌ」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 煙草稅則ニ關スル第六委員ノ選舉ニ移リマス

第六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

○河島醇君(百七十九番) 是モ前同様營業稅ノ委員ニ付託セラレシコトヲ望ミマス

(「イケナイイケナイ」ト呼フ者アリ)

○吉本榮吉君(八十二番) 是ハ葉烟草ノ委員ニ付託センコトヲ希望致シマス、烟草ハ烟草ト云フヤウニ……

(「贊成々々」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 久保九兵衛君ノ動議ヲ葉烟草ニ關スル委員ニ此案ヲ付託シタイト申スコト

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 併シ河島君ノ營業稅ノ委員ニ付託シタイト云フ説ガアリマス

(「河島君ニ贊成」ト呼フ者アリ又「營業ニ關係シタ問題デアル」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 然ラバ葉烟草ノ委員ニ付託スルト申ス久保九兵衛君ノ動議ニ同意ノ諸君ハ起立

起立者 少數

○議長(楠本正隆君) 少數ト認メマス、サスレバ外ニ御動議ガナケレバ河島君ノ説ニ決シマス

(「異議ナシ異議ナシ」ノ聲起ル)

○議長(楠本正隆君) 次ハ第七醬油稅則法律案

第七 醬油稅則中改正法律案(政府提出)

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

明治二十一年勅令第四十七號醬油稅則中營業稅ニ關スル事項ヲ刪除ス

附則

此ノ法律ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス

○議長(楠本正隆君) 目賀田種太郎君

(政府委員大藏省主稅局長目賀田種太郎君演壇ニ登ル)

○政府委員目賀田種太郎君 本案モ營業稅ノ制定ト共ニ必要ヲ認メマス、即チ第二條ニ於キマシテ營業稅ヲ徵シテアル分ヲ改ムルコトヲ要シマス

(「同僚委員」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 次ハ第八ニ移リマス

第八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

○河島醇君(百七十九番) 是レ亦前同様營業稅ノ委員ニ付託シタイト考ヘマス

(「河島君ニ同意」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 前例ニ從ッテ御異議ガナイト認メマス、次ハ第九輸入棉花海關稅免除法律案

第九 輸入棉花海關稅免除法律案(政府提出)

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

外國ヨリ輸入スル棉花ハ明治二十九年四月一日ヨリ海關稅ヲ免除ス

○議長(楠本正隆君) 目賀田種太郎君

(政府委員主稅局長目賀田種太郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(目賀田種太郎君) 晩近我國ノ紡績ノ業ハ非常ナ發達デゴザリマス、殆ド六十六萬餘ノ錠數ヲ用ヒマス、從ッテ二十一年頃ニ比シマスルト云フト昨今棉花ノ事ハ非常ノ違ニナツテ居リマス、從ッテ此外國ノ棉絲ノ輸入モ非常ニ減ツテ居リマス、宜シク此時ニ當ッテ本稅ヲ廢シテ內國ノ產業ヲ助クルハ適當ナルコト、考ヘマス、今諸般ノ財政ヲ明ニシテ將來ニ國本ヲ固フセントスル時ニ當リマシテハ、本案モ誠ニ必要ナルモノト考ヘマス、宜シク各位ノ御審議ヲ待チマス

○議長(楠本正隆君) 次ハ第十、右ニ關スル委員ノ選舉ニ移リマス

第十 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

○吉本榮吉君(八十二番) 是ハ栗原亮一君ノ案ト併テ、例ニ依ッテ前ノ如ク指名ノ委員ニ付託スルコトヲ發議致シマス

○議長(楠本正隆君) 此棉花ニ關シテ栗原亮一君外二名ヨリ類似ノ議案ガ出テ居リマス、併テ前例ノ通議長指名ノ委員デ宜シウゴザイマス

(「異議ナシ異議ナシ」ノ聲起ル)

○議長(楠本正隆君) 然ラバ右ノ通決シマス——次ハ第十一營業滿期國立銀行處分法案

第十一 營業滿期國立銀行處分法案(政府提出)

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

營業滿期國立銀行處分法案

第一條 國立銀行ニシテ營業滿期後國立銀行條例第十二條ニ依リ私立銀行ノ資格ヲ以テ營業ヲ繼續セントスルモノハ營業滿期ノ日ヨリ三箇月以

前ニ營業繼續及定款改正ノ決議ヲ爲シ其ノ改正定款ヲ添ヘ大藏大臣ニ營業繼續ノ許可ヲ請フヘシ

第二條 前條ノ國立銀行ニシテ資本金額ヲ減少シテ營業ヲ繼續セントスルモノハ國立銀行條例第四十二條第四十三條及第四十四條ノ手續ヲ了シタル上

前條ニ依リ營業繼續ノ許可ヲ請フヘシ但同條例第十七條ノ制限ヲ適用スル限ニアラス

第三條 營業繼續及定款改正ノ決議ハ國立銀行條例第六十九條格段決議ノ方法ニ依ル

第四條 營業滿期ニ至リ營業ヲ繼續セサル國立銀行ノ解散手續ニ關シテハ商法株式會社解散及清算ノ條項ヲ適用ス

第五條 國立銀行ハ營業滿期日ニ於テ其ノ發行紙幣ヲ悉皆消却シ能ハサルトキハ消却殘高ニ相當スル金額ヲ政府ニ納付スヘシ

日本銀行ハ私立銀行トナリテ營業ヲ繼續セントスル國立銀行ヨリ前項ニ依リ政府ニ納付スヘキ金額借入ノ請求ヲ受ケタルトキハ無利子ニテ之ヲ貸付スヘシ

第六條 前條第一項ノ金額ヲ收納シタルトキハ政府ハ其ノ預リタル紙幣抵當公債證書ヲ還付スヘシ

第七條 政府ハ國立銀行ヨリ納付シタル金額ヲ以テ紙幣消却ノ基金ト爲シ其ノ發行紙幣ヲ交換スヘシ

國立銀行其ノ紙幣消却殘高ニ相當スル金額ヲ納付セサルトキハ政府ハ其ノ預リタル紙幣抵當公債證書ヲ賣却シ紙幣消却ノ基金ニ充ツヘシ

○議長(楠本正隆君) 田尻稻次郎君

(政府委員大藏次官法學博士田尻稻次郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(男爵田尻稻次郎君) 唯今出マシタ此第十一番ノ議題デアリマスルガ、是ハ昨年來屢々出マシタ案デアリマシテ今年ハ多少ノ修正ヲ加ヘマシテ、餘程又事ガ新シク、法律モ綿密ニナツテ居マスカラ、尙ホ公平ナ御調査ヲ願マシテ速ニ御協賛ヲ仰ギタイデゴザイマス、ソレカラ後トニ附屬致シマスル未だ問題ニハナツテ居リマセヌガ、起立ノ序ニ申上ゲテ置キマスルガ是モ皆第十一ニ附屬スル部類デアリマスカラ、ドウゾ十分ノ御調査ヲ願ヒタイト思ヒマス

○新井毫君(四十八番) 本問題ハ金融機關ノ基礎ニ關スルモノデ、天下國家ニ大關係ノアル問題ト信ジマスルガ故ニ、議長ノ指名ヲ以テ十八名ノ委員ヲ舉ゲテ付託サレシコトヲ希望致シマス

(贊成々々ノ聲起ル)

○議長(楠本正隆君) 委員選舉ニ移リマス

(高木正年君「質問ガアリマス」ト呼フ)

○議長(楠本正隆君) 質問ガアリマスレバ——高木正年君

○高木正年君(百二十九番) 政府委員ニ御尋致シマスガ第五條ニ「金額借入ノ請求ヲ受ケタルトキハ無利息ニテ之ヲ貸付スヘシ」トアリマスガ、一體日本銀行ハ矢張株式ノ一箇ノ營業銀行デアアル以上ハ契約上デ出來ルコト、思ヒマスガ、此法律ニハ唯命令ニナツテ居リマス、實際是ダケデ出來ルモノト政府委員ハ考ヘテ居リマスカ、一體ソレニ就イテ悉シイ説明ヲ聽キタイト思ヒマス

(政府委員大藏書記官添田壽一君演壇ニ登ル)

○政府委員(添田壽一君) 高木君ニ御答ヲ致シマスル、此條ハ日本銀行ニ是ダケノ義務ノアルコトヲ明ニシタノデアリマシテ、即チ是ニ依ツテ契約ヲ結ブモノデアリマス

○河島醇君(百七十九番) 本員ハ本案ニ向ツテ御質問ヲ當局者ニシナクテハナラヌ、本案ノ前期議會ニ於テ經濟上ノ一大問題デアアル、而シテ政府ハ特ニ之ヲ一ノ政略問題トシタ問題デアアル、固ヨリ是ハ政略問題トスベキモノデナイ、即チ營業者ノ其利益ニ關スル問題デアアルガ故ニ、世俗ガ所謂一方ニ十五銀行派アリ、一方ニハソレト對シテ日本銀行派ト云フモノガアツテ互ニ利益ノ爭ヲシタノデアアル、ソレガ故ニ浮説流言極リナイ、本員等モ各新聞カラ攻撃

ヲ受ケタ一人デアアル、併ナガラ自ラ疚シキ所ガナケレバ少モ耻ヅル所ハナイ、即チ俯仰天地ニ耻ヂヌノデアアル、而シテ浮説流言ノタメニ贊否ヲ表スルニ躊躇シタ諸君ガアツタカ知ラヌガ、議場ノ神聖ナル遂ニ大多數ヲ以テ本案ヲ否決シ、彼ノ元田肇君ノ提出ニ相成リマシタ修正案ガ多數ヲ以テ通過シタノデアアル、然ルニ政府ハ其否決セラレタ案ヲ再ビ本院ニ提出ニナツテ之ガ通過ヲ求ムルト云フノハ、蓋シ政府ニ於テ何カ特別ノ事情ガアルデアラウト思フ、今茲ニ本員ガ記憶シテ居ル所ヲ述ブレバ彼ノ日本銀行ノ設立セラレタ其當時、此國立銀行條例改正ノ必要ニ際シタルデアアル、其改正ノ必要ニ際シタ場合ニ於テ當時ノ大藏大臣ハ各營業者即チ國立銀行營業者ノ重ナルモノヲ招イテ、サウシテ之ニ論スニ銀行條例改正ノ必要ヲ以テシタルデアアル、今改正ハセラレヌガ大藏大臣ハ斯様ナ目的ヲ以テ銀行條例ノ改正ノ必要ヲ求メタ、併ナガラ此銀行條例ノ改正ニ就イテハ營業者ハ營業上ニ幾分カ利害ノ關係ヲ有スルガ故ニ、豫メ其意志ヲ含メテ居ル、從來國立銀行ハ尙ホ繼續ヲ許スノ精神デアツタガ、此條例改正ト同時ニ二十年ニ限ルノ外延期ヲ許スコトハ出來ナイ、其代リニ是マデ現金其他ヲ以テ準備ト致シタ所ノ金高ハ悉ク有利ノ公債ヲ買入レテ、其公債ヲ以テ——公債ノ利子ヲ以テ其償却ニ充テ又是ニ繼ギ足スベキモノモ同様ニ公債ヲ買入レテ、ソレニ依ツテ償却ノ目的ヲ立テヤウ、所謂日本銀行ニ委託ヲ致シ、ソレノ償却法ノ途ガ此當時ニ於テ開カレタノデアアル、ソレ故ニ各營業者ハ大藏大臣ノ懇々ナル所ノ説諭ニ從ヒ、左様ナラ吾々營業者ニ於テ決シテ損害ヲスルコトハナイ、此法案ノ改正ハ吾々ハ承諾ヲ致シマスト云フコトヲ述ベタデアアル、然ル所此改正ノ趣意ト其實ガナゼ顛倒ヲ致シタカ、ナゼソレガ間違ッタカト申シテ見ルト、其後明治二十年カハ知ラナイガ、所謂財政整理ノタメニ整理公債發行ト爲ッタデアアル、其整理公債發行ノタメニ總テノ利子——此銀行ノ償却ノタメニ積立テタ所ノ基本金ノ利子ハ……七朱若クハ八朱ノ利息ヲ以テ此期限内ニ償却ヲスル計算デアツタ、所ガ整理公債發行ノタメニ悉ク其利子が五朱以下ニ下ッタデアアル、ソレガタメニ偶々成立セラレタ所ノ其實ハ全ク計算上狂ヒヲ生ジテ、其結果カラ申シテ見レバ改正ノタメニ當局者ハ大ナル損害ヲ被ルノ場合ニナツタノデアアル、豈啻ニ利子ニ於ケルノミナラズ、抵當ニ入レタアル所ノ公債ノ價格モ從ツテ減却ヲシタノデアアル、故ニ法理上ニ對シテハ營業者ハ今日敢テ講ズルコトアルベシト雖モ、其大藏大臣ガ説諭シタ所ノ所謂言動ニ對シテハ、幾分か是ニ對シテ要求スル所ノ權利ハ十分デアアルト思フ、右ノヤウナ現象ニ於テ事實營業者ニハ損害ノナイヤウニ保證ヲ受クベキ事實ガ、實際ニ於テ狂ヒヲ始メ、七年間繼續スルニアラズンバ前大藏大臣ノ訓示ノ如ク自ラ權利ヲ義務ヲ了ルコトハ出來ナイト云フ結果ニ至ッタデアアル、然ルニ其國家ニ對シ責任アルニモ拘ラズ、又曩キニ訓諭シタニモ拘ラズ、又此本案ガ昨年出サレタ時否決セラレタニモ拘ラズ、再ビ此法案ノ提出ヲ見ルハ實ニ疑フベキコトデアアル、昨年本案ヲ修正シタ則チ元田肇君ノ提出案ト云フモノハドウ云フ精

神ト云ヘバ、取りモ直サズ銀行條例改正ノ際ニカッテ大藏大臣ガ當業者ニ向ッテ訓諭シ、保證シタ所ノ其實ノ如ク之ヲ履行セントシタ所ノ法案デアツタノデアル、然ルニ元田氏ノ修正説ハ自ラ探ルコトヲ爲サズシテ、却テ是ニ反對ノ法案ヲ再ビ提出ニナツタト云フモノハ何ノ事情ガ生ジタノデアルカ、特ニ詳細ナル所ノ説明ヲ要ス

(政府委員大藏書記官添田壽一君演壇ニ登ル)

○政府委員(添田壽一君) 河島君ニ御答ヲ致シマス、極簡略ニ申上ゲマスガ、政府ニ於テ此案ヲ提出致シマシタニ就キマシテハ(此時河島君「少シ高ク願ヒマス」ト呼フ)ハイ何等ノ事情モ、内情モアリマセヌ、既ニ御承知ノ通ニ此國立銀行ノ一番初メニ營業滿期ニナルモノハ最早今年デアリマス、最早此立法時期ヲ去リマスレバ國立銀行ノ處分ニ就イテノ法律ヲ作ルノ時期ガナイノデアリマス、斯ノ如ク差迫リタルタメニ此案ヲ提出シタノデアリマス、又元田君ノ法律案ヲ採用シマセヌハ在來政府ガ執リ來ッタル所ノ財政上、經濟上ノ方針ト相容レナイカラデアリマス、又モウ一言御斷リヲ申上ゲテ置カナケレバナラヌコトハ、河島君ハ頻ニ十六年ノ改正ノ時ニ國立銀行ニ向ッテ大藏大臣ガ保證シタト云フコトヲ仰セラレマスルケレドモ全ク其實ハ反對デアリマス、現ニ大藏卿ヨリ當時ノ國立銀行ヘ命令ヲシマシタモノヲ御覽ニナレバ、合同償却ニ就イテ下シタ命令書ノ第五條ニ斯ノ如キコトガ明言致シテアリマス「但シ營業年限内ニ於テ公債證書價格ノ騰貴ニヨリ前第三條ニ記載スル公債證書及ヒ其利子ニ減少ヲ生シ之カ爲紙幣消却ノ元資ニ不足ヲ來スコトアルトキハ云々」トゴザイマシテハ明ニ豫測致シタルコトデアリマス、且ツ又此タメニ若シ假ニ損害ヲ受ケタト致シマシテモ、ソレハ銀行者バカリノ損害デナイノミナラズ、公債證書ノ上ガリマシタル則チ資産ノ増加シタルダケハ國立銀行ハ大ナル利益ヲ得テ居ル點モアルノデアリマス、旁、御斷リヲ申上ゲマス

○議長(楠本正隆君) 第十二委員ノ選舉ニ移リマスル……改メテ申シマスル新井臺君……

第十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

○新井臺君(四十八番) 本問題ハ前申シマシタ通ニ、實業社會ノ經濟上ニ大關係アル法案デアリマスルカラ、事慎重ニ審議センガタメニ十八名ノ委員ヲ議長ヨリ指名ヲセラレテ、此銀行問題ニ關聯シタ法案ヲ皆委託サレンコトヲ希望致シマス

(贊成々々ノ聲起ル)

○議長(楠本正隆君) 新井臺君ノ動議ニハ反對ガゴザイマセヌ

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 然ラバ可定ト認メマスル——次ハ唯今ノ決議ニ依リマシテ十二ヨリ十八マデヲ一括シテ議題ト致シマスル

第十三 國立銀行紙幣ノ通用及引換期限ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第十五 國立銀行營業滿期前特別處分法案(政府提出) 第一讀會

第十七 國立銀行紙幣交換基金特別會計法第五條中改正法律案(政府提出) 第一讀會

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

第一條 國立銀行紙幣ノ通用期限ハ明治三十二年十二月九日トス

第二條 國立銀行紙幣ヲ所持スル者ハ前條期日ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年

内ニ其ノ引換方ヲ政府ニ請求スヘシ

前項ノ引換期日ヲ過クルトキハ總テ所持人ノ損失トス

第三條 本法ハ官命又ハ平穩鎮店ニ係ル國立銀行發行ノ紙幣ニハ之ヲ適用セス

國立銀行營業滿期前特別處分法

第一條 國立銀行ハ營業滿期前ト雖私立銀行トナリテ營業ヲ繼續スルコトヲ得

第二條 前條ノ國立銀行ハ營業滿期前ニ私立銀行トナリテ營業ヲ繼續スルコト及改正定款ノ決議ヲ爲シ其ノ改正定款ヲ添ヘ大藏大臣ノ許可ヲ請フヘシ

第三條 前條營業繼續及定款改正ノ決議ハ國立銀行條例第六十九條格段決議ノ方法ニ依ル

第四條 第二條ノ許可ヲ得タルトキハ國立銀行ハ其ノ旨ヲ總テノ債權者ニ通知シ同時ニ新聞紙其ノ他ノ方法ヲ以テ公告シ異議アル者ハ三箇月内ニ申出ツヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

前項ノ期間ヲ過クルトキハ債權者ハ異議申出ノ權利ヲ失フモノトス

第五條 債權者第四條ノ期間ニ異議ヲ申出タルトキハ國立銀行ハ其ノ債務金額及約定期限中ノ利子ヲ辨償スヘシ

第六條 國立銀行ハ第五條ノ規程ニ從ヒ辨償ヲ了ヘ且ツ第四條ノ期間ヲ經過シタル後ニアラサレハ私立銀行トナルコトヲ得ス

第七條 過怠ナキ不知ノ爲メ第四條ノ期間ニ異議ヲ申出サル債權者ヨリ債務ノ辨償ヲ要求シタルトキハ銀行ハ約定期限前ト雖第五條ノ規程ニ從ヒ辨償スヘシ

第八條 營業滿期國立銀行處分法第二條及第五條ノ規程ハ營業滿期前ニ私立銀行トナル國立銀行ニモ之ヲ適用ス

第九條 營業滿期前ニ私立銀行トナル國立銀行ノ紙幣消却ニ付テハ政府ハ營業滿期國立銀行處分法第六條及第七條ニ依リ之ヲ處分ス

鎮店銀行紙幣交換基金特別會計法第五條國立銀行紙幣ノ下ニ左ノ二十三字ヲ加フ

竝ニ營業滿期前ニ特別處分ヲ爲シタル國立銀行紙幣

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(楠本正隆君) 御不同意ナクバ前委員ニ付託スベキモノト致シテ議事日程ノ終リヲ告ゲマス——明日ノ議事日程ヲ報道致シマス
議事日程 第七號 明治二十九年一月十四日(火曜日)

午後一時開議

- 第一 國債證券買入銷却法案(政府提出) 第一讀會
 - 第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會
 - 第三 償金特別會計法案(政府提出) 第一讀會
 - 第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會
 - 第五 臨時軍事費特別會計ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會
 - 第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會
 - 第七 鎮守府造船材料資金増加ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會
 - 第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會
 - 第九 官設鐵道用品資金増加法律案(政府提出) 第一讀會
 - 第十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會
 - 第十一 官設鐵道用品ヲ官設鐵道用品資金ヨリ買入ル、トキ前金拂概算渡ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會
 - 第十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會
 - 第十三 明治二十七年法律第六號鐵道比較線路決定ニ關スル法律中改正法律案(政府提出) 第一讀會
 - 第十四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會
 - 第十五 鐵道敷設法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
 - 第十六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會
 - 第十七 航海獎勵法案(政府提出) 第一讀會
 - 第十八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會
 - 第十九 造船獎勵法案(政府提出) 第一讀會
 - 第二十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會
- 議長(楠本正隆君) 是ニテ散會ヲ報シマス
午後二時四十二分散會

衆議院議事速記録第二號正誤

頁段 行 誤
九上 一三 「即チ正則デゴザリ」正
マス」ノ十字ヲ削ル

衆議院議事速記録第五號正誤

頁段 行 誤	頁段 行 誤
九〇上 一六 實捌	九一上 四〇 賦課稅
九〇上 一七 從來	九二下 二三 製造
九〇上 三一 從來	附加稅 正
	租稅